

【補助事業概要の広報資料】

補助事業番号 24-2-015

補助事業名 平成24年度 障害者地域活動拠点の建築 補助事業

補助事業者名 特定非営利活動法人 ひなたぼっこ

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

しょうがいを持っていても、安心して住み慣れた地域で暮らし続けることのできる仕組み作りと、その生活を支えるための自由に利用できる居場所を建築すること。

(2) 実施内容

【しょうがい者(児)の日中の活動場所の建設】

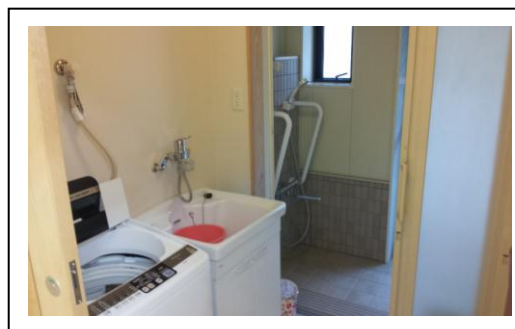
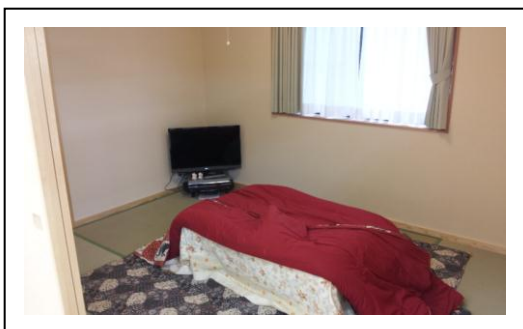
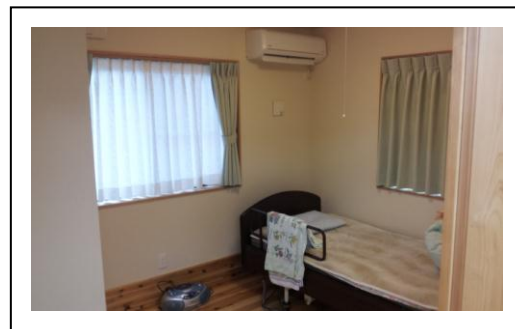
しょうがいを持っている方が、家庭や学校以外に自由に利用できるものを目指して建築計画を推進してきた。制度の利用に関らず、来たい時に来て、ちゃんと居場所や役割がある環境を創り出す。

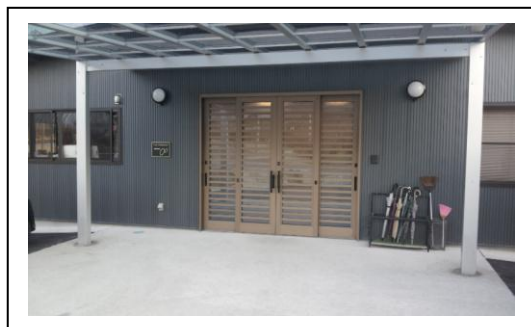
【日中の活動】

働く・・高齢者のデイサービスも併設されており、その中で介護スタッフとして働いたり、新たに導入した薪ストーブの薪の調達を新たな事業として展開しています。

遊ぶ・・基本的に入りは自由で、これまで家以外に居場所が無かった方も、ふらっと「遊びに来たよ」と覗いてくれます。また、制度利用では日中一時支援や移動支援を利用しながら、おでかけしたり、創作活動、音楽活動などを計画して楽しんでいます。

集まる・・地域のコミュニティーの場所となるように、しょうがいを持つ方だけでなく、一般の方にも開放し利用をいただいています。現在は手芸教室、音楽のサロン、井戸端かいぎなど利用の用途は多岐にわたっています。





2 予想される事業実施効果

これまで、デイサービスとしての機能が主だったひなたぼっこですが、新しい建物が建築され、地域からの注目が集まっています。何より、しょうがいを持つ方、また家族から「こんな場所が欲しかった」「ここなら、しょうがいに合わせて楽しく過ごすことができる」といった期待の声が寄せられています。現在の国の施策や方向は「施設から地域へ」というこれまでの施設主義を大きく転換しようとしている時期になっています。そういった中で「地域で暮らすために必要な機能は何なのか」を具体的に形で現すことができつつあるのではないかと感ずます。これまでの機能によって縦割りされていた建物ではなく、利用する方がその使い方を決められる、そんな自由な発想を可能にすることが、しょうがいを持つ方を地域で支えるためには必要不可欠だと感じます。これから、この場所がモデルケースとなり地域に多くの同じような機能を持った建物ができるしていくための活動を推進していきます。

3 本事業により作成した印刷物等

ひなたぼっこ通信 第40号 2013年2月28日発行 発行2200部

4 事業内容についての問い合わせ先

所属機関名： NPO法人 ひなたぼっこ (フリガナ) ヒナタボッコ

住 所： 〒509-8301

岐阜県中津川市蛭川6393-2

代 表 者： 理事長 齊藤啓治 (フリガナ) サイトウケイジ

担 当 部 署： しょうがい事業管理者 原 友幸 (フリガナ) ハラトモユキ

電 話 番 号： 0573-45-2120

F A X： 0573-45-2154

E - m a i l： hinata@theia.ocn.ne.jp